

# 1. 調査報告概要表

作成日 2007年11月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170400648
法人名	有限会社 水谷
事業所名	グループホーム すまいる水谷
所在地 (電話番号)	〒501-6316 岐阜県羽島市中町市之枝2丁目401番地 (電話) 058-397-0320

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒501-6232 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719番地1
訪問調査日	平成19年11月17日

## 【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤	4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 4.7 人

### (2)建物概要

建物構造	木造	
	1階建ての	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,000円		

### (4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	60 歳	最高	89 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	小川医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>GHすまいる水谷は、羽島市の南部の田園風景が広がる所に位置し、閑静な住宅が連なる中に建っていて、近隣の理解があり、地域に溶け込んでいる。 施設の定員は6人であり、少人数の特徴を活かして、家庭的な馴染みの関係をつくり、日々の生活支援も個人個人に合わせた、手作りのサービスを行なっている。職員の勤務体制では夜勤専門の人が配置され、日勤の職員が働きやすい職場づくりの工夫をしている。また、個人の負担金が低く押さえられており、利用者に喜ばれている。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を、職員全員で協議検討し、改善シートを作成して取り組みをしている。場所間違え等、混乱を防ぐ取組みがされ改善されていた。また、使い慣れた食器の使用についても、利用者や家族と相談して本人が気に入っているものが使われていた。更に、金銭管理についての利用者や家族と話し合いながら、よりよい支援を目指している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価や外部評価結果を分析して、改善に繋がっているが全員での評価の取組みとなっていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議のメンバーには、利用者の代表、家族の代表、地域の代表(民生委員)、市の高齢福祉課等が参加して、活発に意見が出ている。でてきた意見等は、施設の運営に反映されている。直ぐやれるものは、その時から実施し、時間や予算がかかるものは検討課題として協議することになっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見や不満、苦情等は、面会時や個別の連絡の機会に聞き出すようにしている。また、運営推進委員会にも家族の代表が参加しており、意見の出やすい雰囲気作り工夫をしている。出た意見は職員で話し合い、やれるものから運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 集合住宅地の中にあり、地域の人とふれあう機会が多い。地域の人の理解があり散歩や外出のときは必ずあいさつを交わしたり、地域の行事にも参加している。小学校の運動会や保育園祭りにも参加している。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安全・安楽」の理念の基で、利用者本位の支援を行っており、利用者は日々安心して楽しく生活している。その人らしい生活の支援で地域住民との関係づくりの要素が不足している。	○	平成18年度の介護保険法の改正で、地域密着型サービス制度が新設され、グループホームもその役割を果たすことになっている。地域住民との交流の下でと言う基本方針が明示してあるので、安全・安楽の理念に、地域との関係づくりの視点からも見て内容を検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について管理者は、様々な場面で、職員と話し合い、日々の家庭的な環境をつくりだす取組みをしたり、自立を促す取組みをしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	閑静な集合住宅の中に位置しており、近隣の理解を得られ、散歩や外出の時など、親しく挨拶を交わしている。また、地域の行事や保育園まつり、小学校の運動会などにも参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価等、積極的に受けており、評価結果を踏まえ改善シートを作成し、職員全員で改善に向けた取組みをしている。	○	職員が評価の意義や目的を理解し、職員全員で取り組むことにより、最大の効果を挙げることに繋がるもので、職員全員で自己評価をし、外部評価結果についても全員で協議されることを望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に行なっている。会議のテーマも事前に決めてあり、活発な意見が交わされている。また、出て来た意見や提言を記録しており、直ぐやれるものはやり、時間や予算が伴うものは検討課題として取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に必ず市役所からの参加がある。また、施設開設時から、市役所とは常に連携を取っており、相談や情報交換を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族とは常に連絡を取っている。特に、家族の訪問時には、職員が家族との話し合いを持ち、本人の健康状態や近況等詳しく報告している。今回、ホームのたより第1号を職員全員で手書きで発行し、家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表が参加しており、意見や提言をもらい、運営に反映している。また、面会時にも職員が家族からの意見や不満、苦情を聞き、職員で話し合いながら運営に取り入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の交代による利用者のダメージをよく理解しており、夜勤専門の職員の配置や職員が働ける時間に勤務時間を決めるなど、職員が働きやすい職場作りをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の技術や知識の習得が出来るように、研修の案内を見せて、受講を勧めている。受講者は研修結果報告を会議等で報告しているが、研修者が偏っている。	○	サービスの質の向上を図るには、非常勤職員を含めた、職員全員のレベルアップが不可欠である。そのための様々な研修会があり、その研修受講機会を確保するために、職員と話し合い、研修計画を作成することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入しており、会議に積極的に参加し、意見交換や情報の交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、職員が出向いて本人や家族とのふれあいを大切にして説明をしている。また、本人や家族の希望があれば、見学や体験入所してもらう体制が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	定員が6人と少人数の特徴を活かした、家庭的な馴染みの関係を一番大切に支援をしている。利用者の思いを職員が理解できるよう同じ場所や時間を共有して、利用者と同様な思いや喜怒哀楽等を共有し合える関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が、どんな暮らしをしていきたいか、日々をどう過ごしたいかを、利用者や家族から聞き出している。また、日ごろ、利用者がポツンと発した言葉や表情から、その人の意向を把握するよう心掛けており、常に職員間で利用者の希望について話し合い、利用者本位の支援を行なっている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族のアセスメントに基づいて、また、職員全員で、意見交換やカンファレンスを行ない、更に、本人や家族の意見や意向及びアイデアを反映させて、個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月に1回、定期的な見直しを行っている。見直しには、本人や家族の話し合いや、主治医の意見を聞いて、本人の現状にあった計画書の作成を行なっているが記録等不十分である。	○	日々の個人記録を、職員が記録しやすい様式の検討を期待したい。それが記録を読み情報を共有することと相乗効果として現れることを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院や里帰り、かかりつけの医者など家族がどうしても連れて行けないときに、本人の希望に従って、職員で対応している。常に家族と連絡を取って柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医者に関しては、入居時に重要事項説明書に従って説明をする段階で、施設の主治医について、本人や家族に分かりやすく説明して了承を得ているが、最終的には、本人や家族の希望に沿った支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は、重度の介護者はいないが、将来を見据えて、看取りの指針を作成し、職員で重度介護の検討会をし、本人や家族との連携の取り方や、主治医との連携についての勉強会を開いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、その重要性和必要性を認識し、職員にも周知している。職員は日々の言葉掛けや排泄、入浴等、本人のプライバシーを損ねないよう注意深く、気を配りながら支援を行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決めてあるが、あくまでも原則であって、その日の生活は、本人の健康状態や気分によって変わるので、その人の希望を優先している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表は作成してあるが、少人数なので、時には利用者の意見を聞きながら、好みのメニューも決めている。また、参加できる利用者は、野菜の皮むきや食事の準備、後片付け等を職員と一緒にこなしている。食事は職員と一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少人数なので、風呂はゆっくり入ることが出来る。また、入居者は女性ばかりなので、プライバシーのことも気を使うことなく入浴を楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩やレクリエーション、祭り、クリスマス等の行事、趣味や家事等、利用者にあわせた、役割、楽しみごとで気晴らしの支援を行なっている。職員は、本人の生活歴やその人が持っている能力を把握したうえで支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設の周りは、交通量が少ない道路が多く、散歩を良く行なっている。この他に、近くの神社や道の駅、お千代保稲荷、スーパー等にも出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は、鍵を掛けていない。また、玄関も夜以外は鍵を掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施しているが、マニュアル等の整備も十分でない。	○	地域密着型サービスは地域住民との交流が基本方針として明示されているので、災害対策において、マニュアルの作成をすること及び初期消火訓練や避難訓練等の実施に、近くにある消防署南分署にお願いし、地域の住民と一緒に訓練をする計画を立てられることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量の記録をしている。また、献立においては栄養バランスを重視し、更に利用者の健康状態や好み等に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は清潔にしてあり、季節の花が飾られていて、とても居心地がよいスペースとなっている。また、廊下の天井も高く、天窓から採光を取り入れており、明るさが際立っている。居間の窓から見える風景も田園地帯なのでゆったりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、清潔に保たれ、また、それぞれ広いスペースを利用して、使い慣れた馴染みのタンスや写真などの持ち物等があり、とても落ち着く部屋になっている。		